

## 1 単元名 つなげて語り合おう ～物語と現実を行き来する読書会～

## 2 単元について

## (1) 単元の価値と魅力

本来、子どもたちはお話を読んでもらうこと、自分で好きな本を手に取り読むことが好きである。自分が気に入った話なら何度読んでも飽きることなく、また同じような内容の本に手を伸ばしその世界に引き込まれていく。自分にとって良い本に出会うことで想像する力や考える力とともに生活につながることばの力も身についていく。しかし、実際に読み物教材を扱う国語科の学習では、質問されたことに対して何が正解かを探り、答えとなるものを読み取っていくという作業に追われ、その教材から自発的に驚きやおもしろさを感じることは少なくなっているのではないだろうか。学年が上がるにつれて国語があまり好きではないと答える子どもたちが多くなるのもそのような授業の特性が原因の一つであると思われる。そこで、自分が疑問に思ったことや心に残ったことを自由に話し合う読書会を通して、読み手の数だけ読み方があり、様々な解釈ができることに面白さを感じることを、自立した豊かな読みにつながると考え、本単元を設定した。

読書会での話し合いを通して、書かれていることを既有的の知識や経験と結び付けて相手に伝えようとしたり、相手の思いを受け止めてもう一度本を読み返したりし、より深く読み、語り合う力がつくと考えた。

## (2) めざす子どもの姿について

本学級には、与えられた課題についてことばに着目しながら自分の考えをまとめ、相手を納得させようと議論を交わすことに意欲的に取り組む児童が多い。尋ねられたことに対する答えの根拠となる言葉や表現を探し、自分の考えの正しさを主張することができる。その反面、答えがはっきりしないことや根拠が曖昧で自信が持てないことに対しては消極的になってしまう傾向がある。自分の考えに自信を持ち、根拠をはっきりさせて伝えようとする力も大切だが、答えのないことに対して友だちどうして意見を出し合い、考えを作り上げていくという活動の中で、互いを認め合い育ち合う協同的な学びをめざしていきたいと考えている。

物語を読むにあたって、心に残った場面、主人公への共感や反感、疑問に思ったところなどはそれぞれ異なり、読み手の数だけ思いがある。それは読み手ひとりひとりの生活経験や読書体験によって生じる違いであり、正解はない。自分と違った読み方に触れることで視野を広げ、もっと友だちの考えを聞きたい、自分の思いを伝えたい、もっと深く読みたいという思いをもって、主体的に読書する子どもの姿を期待している。

「書かれていることの読み取り」から「自分の経験をふまえた考え」へ、自分の考えの「言い合い」からお互いの考えの「話し合い」へと発想を変えていくことで、自由に読み合い、話し合い、お互いの考えを楽しむ時間を共有させていきたい。

## (3) 本時に向けての教材研究

本単元では、宮沢賢治作品にちりばめられた表現のおもしろさや繰り広げられる世界の不思議さ、描写の鮮やかさに目を向け、想像を広げて読書を楽しむことをねらいとしている。宮沢賢治は、豊かな商家に生まれ、自然に対する強い関心と愛情をもって育った。宗教の影響から世の中のためになる仕事がしたいと考え教師になり、理想的な世界を描くことのできる童話を書き始めたが、きびしい自然の中で生きる農民たちへの熱い思いがわき、自ら農民となることを決心する。そして農民

として生きながら自然と向き合い童話や詩を書き続けた。誰もが仲良くくらし幸せになれる世界を求めて書いた賢治の童話を中心に扱い、その世界に浸って味わうために、賢治の生い立ちや愛したもの、考え方などをつかみ、作品の根底に流れるものを感じ取らせたい。

学習においては、教科書教材「注文の多い料理店」のおもしろさの秘密を探り話し合う活動と並行し、自分のお気に入りの賢治作品についても話し合っていく。「注文の多い料理店」で物語場面の変化、色や音の効果、人物の性格などから、物語のおもしろさをつくっている構成や場面描写、表現の工夫についてとらえさせ、視点を与えて自分が選んだ作品についても考え、話し合いをさせる。話し合いの中で、色や音から自分が想像する世界と友だちが想像する世界の相違について考えたり、賢治が見て考えたであろう世界とつなげたりすることで想像に広がりをもたせたい。さらに、人物の性格や行動に表れる賢治の考えや、不思議な世界や場面の变化、人物の変化に込められた物語のテーマについても考えていくことで、物語の奥深さを感じ考えが深まっていく楽しさを感じさせていきたい。

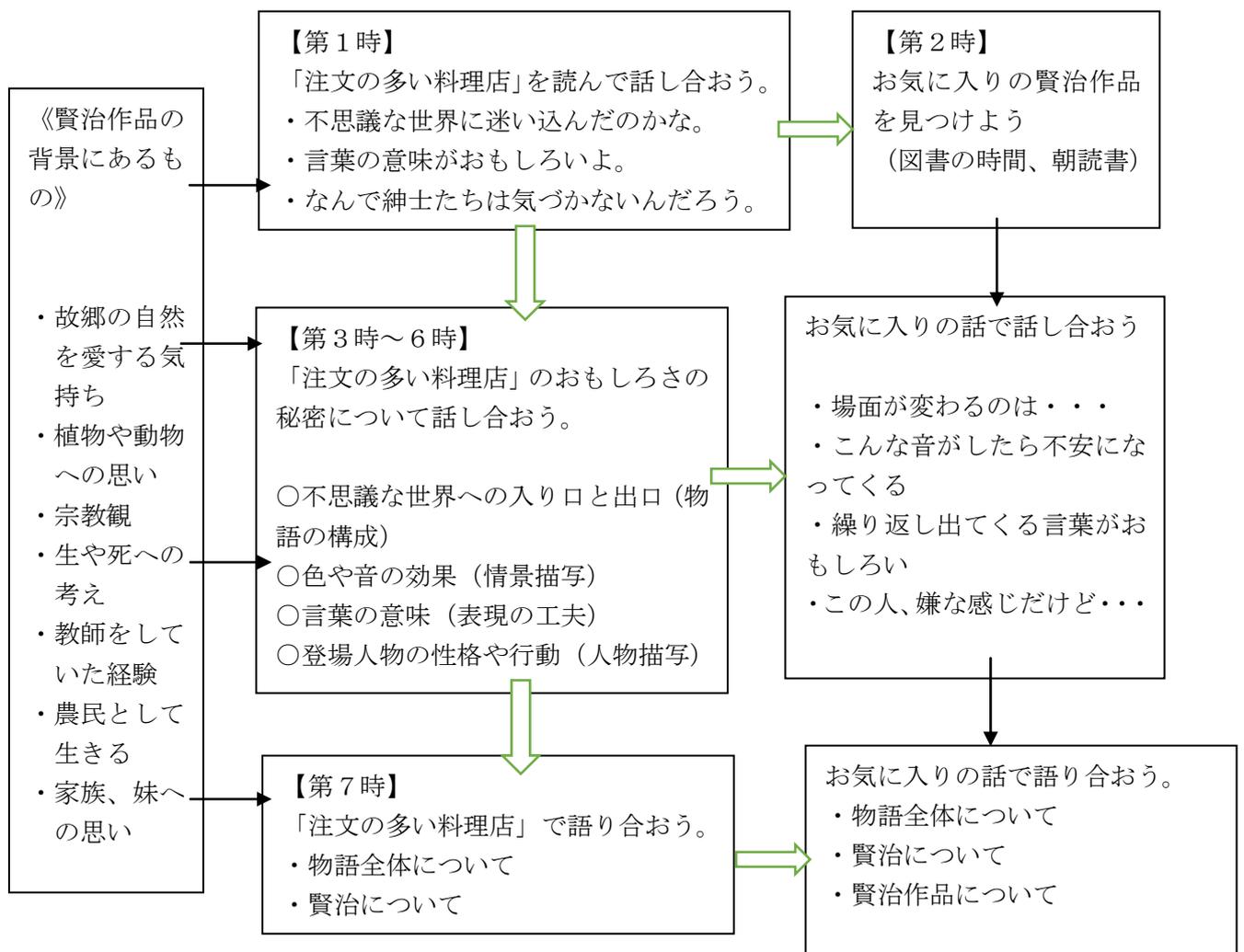
#### (4) 単元の目標

宮沢賢治の作品を読んで考えたことを作者の生い立ちや自分の経験とつなげながら話し合うことを通して、多様な読み方がある面白さに気づき、自分の考えを広げたり深めたりする。

#### (5) 思考のつながり構想図

大単元 つなげて語り合おう～物語と現実を行き来する読書会～

##### 賢治作品の面白さを語り合おう



(6) 学習計画と評価

時	学習内容	評価
1	「注文の多い料理店」を読んで感想を交流し、賢治作品に興味を持つ。 賢治作品から気に入ったものを一つ選び読書会をするという学習課題を確かめる。	・感じ方は人それぞれ違うことに気づき、賢治作品に興味を持つことができる。(関・話聞・読①)
2	賢治作品の中から自分の好きなものを選んで読み、感想を書く。	・自分の好きな表現を見つけながら読むことができる。(読②) ・感じたことの根拠を明確にしながら感想を書くことができる。(書)
3 ～ 6	物語を面白くしている構成や表現の工夫について考え、選んだ作品に当てはめて話し合う。 ・不思議な世界への出入り (物語の構成) ・色や音の効果 (情景描写) ・料理店の戸の意味 (表現の工夫) ・二人の紳士の性格、気持ちの移り変わり (人物描写) ・物語の始めと終わりで変わったところ、変わらなかったところ	・物語の構成の工夫や戸の言葉の二通りの意味などの表現の工夫に気づくことができる。(読②) ・紳士たちの人物像をとらえ、戸の言葉の意味や紳士たちの気持ちの変化を想像しながら読むことができる。(読②) ・物語の構成の工夫や比喩、反復などの表現の工夫に気づくことができる。(言) ・意見を聞き合い、互いの意見を尊重しながら話し合いを進めることができる。(話聞)
7	「注文の多い料理店」と自分が選んだ作品について語り合う ・物語全体について ・賢治作品について	・意見を聞き合い、互いの意見を尊重しながら話し合いを進めることができる。(話聞) ・物語を読んで考えたことを話し合い、考えを深めることができる。(読①)

《評価規準》

○国語への関心・意欲・態度

- ・多様な読みができることを楽しみ、主体的に読もうとしている。

○話す・聞く能力

- ・物語を読んで感じたことを、自分の経験などとつなげながら話したり、相手の考えを聞いたりし、互いの意見を尊重しながら話し合いを進めている。

○書く能力

- ・物語を読んで感じたことを、根拠となる叙述や経験と結び付けながら書いている。

○読む能力

- ①本や文章を読んで考えたことを発表し合い、自分の考えを広げたり深めたりしている。
- ②登場人物の相互関係や心情、場面についての描写をとらえ、表現の工夫について考えている。

○言語についての知識・理解・技能

- ・物語の構成の工夫や、比喩や反復などの表現の工夫に気づいている。

3 本時について

- (1) 本時目標 物語と作者と自分とをつながけながら話し合い、考えを広げたり深めたりすることができる。
- (2) 準備 ワークシート、本
- (3) 本時の展開 (○教師の意図 ◇支援 ◎評価)

学習活動	教師の意図・支援
<p>1 前時までの活動を振り返り、物語の面白さの秘密から、物語全体について話し合うことを確認する。</p>	<p>○前時までの活動で出てきた、情景や人物の描写、表現の面白さ、細かさなどが物語を生き生きとさせていることを確認し、本時の話し合いにつなげる。</p>
<p>賢治の書き表したかったことを考えて、物語全体について語り合おう。</p>	
<p>2 「注文の多い料理店」の面白さ、宮沢賢治が書き表したかったことについて語り合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・物語全体で面白いのは、動物を殺すことをなんとも思わない紳士たちが、食べられる側になっているところ。</li> <li>・そのことにもなかなか気づかないから、どきどきしてくる。</li> <li>・食べられなくてよかったけど、食べられていたら、どうなったんだろう。残酷な話だ。</li> <li>・ハッピーエンドじゃないけど、食べられなかったのは、賢治の優しさかな。</li> <li>・賢治は自然や生き物が好きだったから、紳士たちをこらしめたかったのかも。</li> <li>・山猫は、いろんな生き物たちの気持ちが集まったものじゃないの。</li> </ul> <p>3 自分が選んだ作品について語り合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・よだかの星</li> <li>・雪渡り</li> <li>・どんぐりと山猫</li> <li>・カイロ団長</li> <li>・貝の火</li> <li>・</li> <li>・</li> <li>・</li> </ul> <p>4 話し合いを振り返る</p>	<p>○物語の面白さのしかけから作品のテーマについて迫らせる。</p> <p>◇二つの意味の言葉のように別の見方ができるところがないか考えさせることで、物語を客観的にとらえさせる。</p> <p>◇登場人物や出来事を一般化して考えさせることで児童相互の多様なとらえ方に触れさせ、考えが広がる楽しさを感じさせる。</p> <p>◇賢治の人物像とも結び付け、賢治の考え方や生き方から、作品を通して何を伝えたかったのかを考えさせる。</p> <p>◇自然や生き物を愛し、敬っていた賢治の考えが作品に現れていることに気づかせる。</p> <p>○同じ作品を選んだ3～4人のグループになり、思ったことを話し、お互いの考えを聞き合えるようにする。</p> <p>◇注文の多い料理店と同じように物語全体を見て、賢治の考えがどう反映されているか考えさせる。</p> <p>◎作者の考え方や生き方とつなげて自分なりに考えて話し合い、考えを広げたり深めたりしている。</p> <p>○ワークシートに話し合いと物語の感想を書き込ませ、学習のまとめをする。</p>

